

2016年3月期第1四半期 決算説明会Q&A

【2016年3月期第1四半期 実績】

Q: 計測の1Qの受注実績を地域別でみた時、前年同期比でどうだったか？

A: アジアは、モバイル開発が堅調でプラスだったが、米州は、ネットワークの建設投資に一巡感が見られマイナスであった。EMEAと日本は前年度と同水準で、計測全体では前年同期比-6億円であった。

【2016年度の見通しについて】

Q: MEMSやSAWフィルターなどの半導体テスター市場でも、ネットワークアナライザが使用されるが、汎用計測への測定需要が高まっているのではないか。

A: ネットワークアナライザなどの汎用的に使用されるソリューションにおいても、新しい市場の動向に着目して、従来以上に注力していく。

【中期経営計画】

Q: 3CAが新しいフェーズに入った時のボリューム感は？

A: モバイル開発における計測は、3CAのような新たに追加される技術の部分だけを測るのではなく、これまで築き上げてきたプラットフォームに、新しい技術を一体化して測定するイメージである。そのため、キャリア・アグリゲーションの部分だけ切り出して考えることは難しい。

Q: スマールセルは、どのくらいの基地局数になるか？スマールセル化によって、どんな新しい測定需要が生まれるか？

現行の基地局を一度に置き換えるのではなく、既存のマクロセルに加えて、都市部や密集地からスマールセルの敷設が始まるので、単純な計算で基地局数を算出することは難しい。5Gに向けてネットワークの変化が出てくるので、以下の測定需要を想定しています。

A: ①電波の高密度な利用が進むことにより、干渉波や妨害波の測定需要増加。
②アクセス～トランスポート網の物理的な構造変化に対する測定需要。
③上記②における構造変化に伴い、ソフトウェアで新しいネットワーク環境をトータルにマネジメントするオプティマイゼーション需要。

【その他】

Q: 配布資料にあった統合レポートの中で、開発ROI 4.0 という指標で管理していると書かれているが、2013年3月期をピークに低下傾向にある。開発ROIはどのように改善していくのか。また、その算出方法は単年度の開発費と売上総利益をベースにしていると思うが、累計の数字をベースにした方が実体にあっているのではないか。

プロジェクト毎には、累計の開発費とそのリターンとして開発ROIを管理している。また、その指標としては一概に4.0で制限するのではなく、ビジネスの性格やステージに応じて柔軟に対応している。それに加えて、利益目標に対してコミットメントするためのハットとして、単年度をベースとした開発ROIも管理している。開発ROIを改善する取り組みとしては、開発生産性を上げることで改善していきたいと考えている。

Q: Industrial4.0など、工場のIoT化の動きに対して、アンリツのビジネスチャンスは拡がると考えているか。それに伴い、協業なども進めていく考えはあるか？

A: PQA事業において、新製品での高感度対応に加え、メンテナンスの効率性も求められている。このような課題に対して、IoTなどを活用していくことも考えられる。また、T&M事業におけるIoT関連のビジネスチャンスとしては、自動車やスマートグリッドなどが先行すると考えている。ネットワークの維持管理に人的リソースをかけず、クラウド化されたソリューションが求められている。今の事業の枠にとらわれず、トータルなソリューションを検討し、協業などの可能性があれば推進していく。

(注)PQA事業：Products Quality Assurance (従来のセグメント名称 産業機械事業)